

グリーンピース（実エンドウ）のカルテック施肥例

秋播き・冬～晩春穫り 露地栽培・マルチ栽培 (10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	<p>なるべく早い時期に(播種までに1ヶ月以上おく事)</p> <p>※なるべく春から夏のうちに地力作りをしておくが良い</p> <p>※右記を散布して、なるべく深く耕してください。</p>	<p>ラクトバチルス 600g … 排水よく、根が深く張りやすく、肥切れしにくい肥沃な土を作ります</p> <p>堆厩肥 2トン (多く) ただし多いほど、作付けまでに1ヵ月以上、十分な日数をおいて下さい。</p> <p>硫 安 60kg (もし通常の複合肥料なら、チッソ成分12kg程度)</p> <p>※ウスイ(吸肥強く丈高い品種)では50kg、スーパーグリーン(丈低い品種)では70kg程度とします。</p> <p>※播種時には <u>土壌EC:0.2以下に安定することが大切です。</u> <u>播種間際に元肥(特にNPK成分の肥料)を施さない。特に局所施用しない。</u></p> <p>※土壌pH:6.0~6.5を目標として、もし土の酸性が強い場合は、地力作り時にも 畑のカルシウム(40~60kg程度)を投入して下さい。</p>
整地時	<p>整地・ウネ立て時に全面散布。</p>	<p>畑のカルシウム (または カルテックCa粒状) 60kg ※通常は、栽培中に土壌が酸性化するのを避けるため 畑のカルシウムを。初期からカルシウムを効かせ、また、播種時の土壌pHも正常になります。</p>
播種時	<p>播種前後の灌水の時に <必須></p>	<p>濃縮酵素液 500倍程で染み込ませます。(斉一な発根発芽) ※(播種時に過湿にならないよう注意)</p>
前半	<p>(播種後1ヵ月頃)枝15cm程でテープ固定。支柱へ誘引。側芽は早めにかきとる。</p> <p>この頃、根の伸びを確認しながら葉面散布で調節</p>	<p>濃縮酵素液 500倍液を葉面散布 (根・生長の促進)</p> <p>※根を強く伸ばし、生育を順調にするために酵素液を使います。</p> <p>※生長が弱い場合、立枯れ病(地際の褐変)・根腐れなどの障害がある場合は2リットルを300倍程度で灌水して下さい。 (土壌EC:0.2以下で、チッソ過多にしないこと。)</p> <p>※必ず、深さ10cm程より深くの根の状態を見て下さい。</p> <p>※もし、チッソ過多で茎が伸びすぎる、葉が広すぎる、花着きが悪い(落花・実が止まらない)おそれがある場合は、カルテックCa液状 500倍、葉面散布</p>
開花期追肥	<p>3番目の花が開いた頃 (収穫開始の30日前頃)</p>	<p>硫 安 20kg (~30kg) 畑のカルシウム 20kg (~30kg)</p> <p>※同時に施用 (マルチ栽培では不要。ただし下記の葉面散布をする)</p> <p>※草勢の維持、全体の栄養バランスの健全化、上段の花を充実させ、結莢・子実粒をそろえ、稔実を確実にし、緑色を強くし、食味をあげます。</p> <p>※この頃、<u>土壌pH:6.0以上、EC:0.2~0.4であるか、確認して下さい。</u></p>
開花期以降の調節	<p>半月間隔2回葉面散布。 ※特に収穫始め</p>	<p>カルテックCa液状 500倍、葉面散布</p> <p>※葉を強化。稔実促進。灰色カビ・うどんこ・褐斑病も軽減。</p> <p>※状態によって葉面散布の回数を加減します。チッソ過多・過繁茂の場合多く。</p> <p>※もし根が悪ければ濃縮酵素液、体力不足ならアミノ酸液。</p>